

新刊の紹介

「日光の気象と自然」
著者：辻岡 幹夫

本誌「日光の気象」コーナーを担当されている気象予報士で、日光湯元ビジターセンター前所長でもある辻岡氏が、これまで書き留めていた6年分の本誌記事を加筆し、栃木県山岳連盟主催の安全登山教室で講演された気象講座の内容も加えた本が、昨年10月、随想舎から発行されました。

優れた自然景観、野生動物や植物の宝庫でもある日光の気象を、様々なテーマに沿って読み解いていく絶好の本として紹介いたします。



定価 1,800円(本体価格)
発行 有限会社 随想舎
TEL028-616-6605

各書店または日光湯元
ビジターセンターで販売中

道路・施設情報

日光湯元地区周辺施設・道路春季再開予定
(2月14日現在：変更になる場合もあります)

- ・金精道路(至 丸沼・沼田)4/25 正午～
問合せ先：栃木県日光土木事務所 Tel0288-53-1211
- ・山王林道(至 川俣・川治)4月下旬頃～
問合せ先：県西環境森林事務所 Tel0288-21-1178
- ・あんよの湯(足湯)4/21～
問合せ先：奥日光湯元温泉旅館協同組合
Tel0288-62-2570
- ・日光湯元レストハウス 4月中旬頃～
問合せ先：Tel0288-62-2156(冬季Tel0288- 62-2535)
- ・湯ノ湖歩道 融雪次第で順次開放 4月下旬頃～
問合せ先：日光国立公園事務所 Tel0288-54-1076
- ・湯滝駐車場運用開始 4月下旬頃～
- ・日光湯元キャンプ場 基本開設期間 6/1～10/31
問合せ先：自然公園財団日光支部 Tel0288- 62-2461

購読者の皆様へお知らせ

「楓通信」131号でお知らせしましたように、133号(平成30年6月発行)より、本誌価格を無料といたします。今号(132号)発送時に、133号以降の新規購読申込書と郵便振替用紙、購読料金の残額に相応する図書券を同封させていただきました。

『楓通信』無料化以降の新購読料金について

133号以降も年4回発行し、本体価格も無料ですが、購読を希望される場合、2年単位(133号から140号まで計8部)で1,000円(送料・手数料・税込)となります。途中からの購読申込みも同額となり、その場合には、既刊号同封での対応とさせていただきます。どうぞご了承くださいませ。

今後も、質の高い「奥日光の情報誌」として、皆様に四季のイベントなどを紹介していきたいと考えております。これからも是非購読をいただきます様ご案内申し上げます。

もし、不明点や質問がございましたら、楓通信担当まで連絡くださいますようお願い申し上げます。
TEL0288-62-2461(自然公園財団日光支部)

編集後記

次号より本誌は無料となります。発行から22年間、季節毎のイベント紹介と、日光の情報を発信してまいりましたが、その間、昔のような自由な発想によるイベント企画と入山が許された時代が終わり、イベントの申し込みも、本誌よりもインターネットで参加される傾向が顕著になりました。ここで、今までの本誌の使命を振り返り、新しい要望に応えられる情報誌として再生させたいと願い、購読の在り方も見直しをさせていただきました。個人的には、約2年間の本誌編集の使命を完了。「終わりよければ全てよし」の心境で美酒を酌み交わし、また新たな花の季節を迎える。(M·K)

奥日光の自然情報誌

楓通信 No.132

発行：自然公園財団日光支部
TEL0288-62-2461

2018年3月1日発行
季刊 一部100円
次号 2018年6月初旬 発行予定

当センター開館日・休館日のお知らせ

2-3月 9:30~16:30 (水曜休館)
4-6月 9:00~16:30 (無休)

奥日光の自然情報誌

楓通信

3-5月号
No.132



かえでことてん

**楓事典 奥日光の自然の魅力再発見
付録 奥日光の四季**

特別寄稿

水産研究・教育機構中央水産研究所内水面研究センター 宮本幸太

中禅寺湖における放流の話

～湖・魚・人とのつながりを考える～

奥日光歳時記

平成29年～30年

冬



冬に向かい凛として（ツグミ）

平成29年12月29日撮影

2017年の暮、湯元でもツグミの姿が見られるようになった。

この厳寒の地にやってくるツグミや冬鳥達を見ると「寒くないのだろうか」と思ってしまう。

ただ冬鳥達は、ここよりも更に寒くて、遠い異国之地からはるばるやってくる。

冬将軍の本格的な到来に備えて動物たちも、越冬の準備を着々としている。

自分たちも冬への対応が必要だ。

除雪を始め雪との闘いで、時にはとてもクタクタになることもあるが、

長旅の疲れを見せず、シャキッと胸を張って前を見据えるあのツグミの、凛とした姿を思い出すたびに、

「もっと頑張らねば」と気力を奮い起こして、自分を励ましている。（T・K）

楓事典-かえでことん-

ここはハイキング・登山・スキーの別天地！！

奥日光の自然の魅力再発見

文・Koyama

- ・関東以北最高峰の火山が聳えている
- ・森林や湖水・湿原に恵まれた地形
- ・珍しい植物や野生の生物が生息している
- ・日光湯元は標高の高い場所にある温泉地である
- ・美肌効果高い乳白色の硫黄温泉



日光の地に聳える火山は多く、最初に出現したのは女峰・赤薙山、次に丹勢山、大真名子山や太郎山などが噴火したようです。有名な男体山は、丹勢火山から噴出した比較的新しい成層火山で、日光の代表的景観を作りました。湯元温泉近くにある三ツ岳は地味な火山ですが、北欧的な風景が人気の切込・刈込湖や湯ノ湖を堰き止めました。まだ新しい活火山である奥白根山(標高 2,578m)は関東最高峰で、ここより北の東北や北海道には、これより高い山はありません。つまり首都・東京に近い場所にありながら、標高 2,000m 以上の火山が連なる特別の地なのです。

地元の伝承では、日光連山はファミリーの関係にあり、男体山が家長、その妻が女峰山、長男は太郎山、長女が大真名子山と云われています。実際は、男体山よりも、妻である女峰山や、息子や娘である太郎山、大真名子山の誕生が早いので、男体山は、女峰山と再婚した歳若い夫かもしれませんね？

日光の山々でも旧い成層火山である女峰山の頂付近で、氷河遺存種であるハイマツが、今でも自生して見られるのは、大変に興味深い事実です。その他、白根山に咲くシラネアオイは日本固有の高山植物です。戦場ヶ原で普通に見られるホザキモツケも、実は、北海道と霧ヶ峰だけに咲く植物で、一時は絶滅危惧種でした。これら植物は、激動する大地の歴史の中、氷河時代から生き延びた貴重な生命です。もし地球温暖化の影響や、シカの食害が原因で全滅してしまう事態になれば、非常に残念な事です。



シラネアオイ

奥日光は、雪国の日本海側と太平洋側の境目にあり、湯元付近は雪が多く、戦場ヶ原では少なくなります。冬型の気圧配置になって降る雪はロマンチックですが、その雪の原料は遠い日本海の水蒸気です。新潟県や群馬県に大雪を降らせた雲が、最後の障壁である日光連山を乗り越えて来ます。積雪量は多くはありませんが、その雪質は最高のパウダースノーで軽くサラサラです。北海道にも匹敵する寒冷地で、大自然の中で遊ぶクロスカントリースキー やスノーシューに最適な地形なので、これら雪のスポーツを楽しむには絶好の環境です。その雪も春になれば、日本海と反対側の太平洋側に注ぐ鬼怒川の流れに合流していきます。

白根山周辺に降った雨や雪は、沢水や湧水となって湯ノ湖に注ぎ、湯川の流れとなって戦場ヶ原を潤し、やがて、日本一高い湖といわれる中禅寺湖(標高 1,269m)に流れ込みます。これら湖水には魚が生息していなかったので、明治時代からマス類の放流事業が始まりました。今では中禅寺湖名物ヒメマスも、実は海にいるベニザケと同じ魚で、湖に残留する陸封型をヒメマス、海に回遊する降海型がベニザケです。名前は違えど美味しさは同じですね。

湯元温泉は標高 1,487m あり、有名な長野県上高地や、富山県黒部ダムとほぼ同じ高さです。つまり、空気は平地より薄く、酸素濃度は平地の 83%、気圧も低く沸点は約 95 度(富士山頂は約 85 度)、気温も平地より約 10 度低い環境です。ここで長期滞在すれば、酸素を効率よく取り入れ、身体の新陳代謝をあげる高地トレーニングと同じ効果が期待できるかもしれません。

さらに魅力なのは、西暦 788 年に開湯し、薬師の湯として長い歴史のある温泉です。日本で 4 番目に濃い硫黄濃度を誇る名湯で、美肌効果も期待できる硫化水素型硫黄泉です。ゆっくりとつかって旅の疲れを癒しましょう。

参考: 硫黄濃度 1 位: 万座温泉(群馬県) 2 位: 月岡温泉(新潟県) 3 位: 高湯温泉(福島) と云われています



四季折々、美しい彩を魅せる奥日光！

大自然の中で、あなただけの絶景を見つけて下さい。

ようこそ！自然豊かな奥日光の名山と湯元温泉に

日光の気象

雪解けそして花の季節へ

長く厳しい奥日光の冬ですが、3月の声を聞くと日に日に暖かくなり雪解けが急激に進みます。4月も半ばになると、雪はほぼ無くなりますが花が咲くにはまだ早く、特に見るべきものはない季節となります。

図-1は奥日光の1年の気温変化を表したグラフです。1月から3月の間は気温の変化は小さく、その後7月にかけて急激に気温は上昇しています。そして7月から8月にかけてはまた気温の変化は小さくなっています。1月から8月にかけての気温変化の曲線を見ると、Sの字を細長く引き伸ばしたような形をしています。このような曲線を描いて変化する現象は様々な場面で見ることができます。停車している車が発進、加速していくときの速度の変化や、子供から大人へと成長していくときの身長の変化もそうです。GDPの増加曲線など社会現象にも現れます。始めは少しずつ変化していたものがそのうち加速し、やがて変化の度合いが小さくなりピークを迎える。私たちにとって当たり前の世の中の真理ですが、難しい言葉で言うとこのような変化曲線をロジスティック曲線と呼ぶそうです。それはさておき、奥日光の3月から6月にかけての気温上昇は特に大きく、雪解けの季節から花の季節へと一気に変化します。日光パークボランティアの皆さんがあらわされた奥日光の花ごよみによると、戦場ヶ原に咲く花の種類数は、3月4月はゼロですが5月は9種類、6月は23種類と急激に増えます。奥日光の3月から6月は、冬から初夏に一気に変化する時期と言えます。急激な季節の変化は、生き物たちの輝きを際立たせ、短い夏とも相まって、私たちに奥日光の自然をいとおしく感じさせる一因となっているでしょう。

ラニーニャの影響はどうだったか

前号で、昨年9月頃から今年の4月頃までラニーニャ現象(南米沖の海水温が低くなる)が続き、今年は寒冬になるかもしれませんと述べました。さて、結果はどうなったでしょうか。図-2は2017年12月から2018年1月までの奥日光の日々の平均気温と平年値のグラフです。これを見ると、12月はかなり寒かったです。1月は25日頃を底に極端に寒い日があったものの高温の期間もありました。月平均気温は平年と比べると12月は1.3°C、1月は0.2°C低くなっています。偏差値を計算すると12月は60、1月は52で、ほぼ平年並みであったと言えますが、このところ暖冬が続いていることを考えると、ラニーニャの影響はあったと言えるでしょう。

ところで話は変わりますが、昨年の楓通信2-3月号で東野圭吾の「ラプラスの魔女」を紹介しました。これが映画化されてこの5月4日に公開されます。主役の一人の環境科学者・青江を人気グループ「嵐」のメンバー櫻井翔が演じます。気になる作品ではあります。

■2017年の平均気温・湯元

	3月	4月	5月
最高気温	2.0°C	10.5°C	18.2°C
最低気温	-6.0°C	-0.7°C	6.6°C

※自然公園財団日光支部の記録より

■2018年日の出日の入り(宇都宮)

	3/1	4/1	5/1
日の出	6:12	5:27	4:48
日の入	17:35	18:02	18:28

※国立天文台ウェブサイトより

■天文情報

	3月	4月	5月
満月	12日	11日	11日
新月	28日	26日	26日

4/23 こと座流星群が極大
5/6 みずがめ座流星群が極大

※国立天文台ホームページより

文◆辻岡.....
気象予報士の資格を持つ職員が、毎回1テーマを分かりやすく解説します。

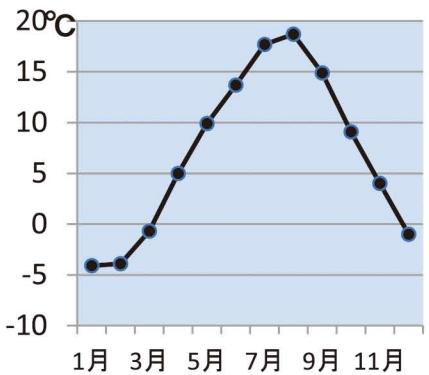


図1 奥日光の月平均気温

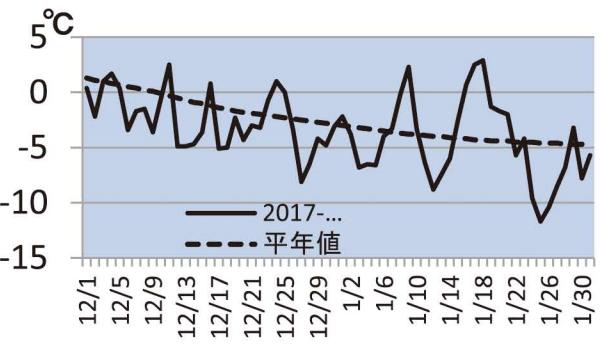


図2 今冬の奥日光の気温変化

特別寄稿

中禅寺湖における放流の話 ~湖・魚・人のつながりを考える~

水産研究・教育機構中央水産研究所内水面研究センター 宮本幸太

春はヤシオツツジに彩られ、夏は紺碧の水面、秋は燃えるような紅葉に囲まれる湖、それが中禅寺湖である。栃木県男体山の麓に水を湛えるこの湖は、その景観だけではなく、釣り人の間で「マス釣りの聖地」と呼ばれるほど、生息するサケ科魚類の種類や数の多い湖として知られている。しかし、中禅寺湖を含む奥日光の全水域には古来より魚類は全く生息していなかったと言われている。これは中禅寺湖より流出する大尻川には下流500m位の地点に華厳の滝があり、この直下100mの豪壮な滝は魚類の遡上を全く阻止したのと、古来この地域は男体山への女性の登山を禁じ、湖岸に居住していた妊婦のお産さえ許されないほどの靈地であり、魚類の放流なども固く禁じられていたためである。しかし、明治6年にイワナが放流されたのを皮切りにサクラマスやヒメマス、外国産のニジマスやカワマスが放流されるようになり、中禅寺湖でも漁業が営まれるようになった。ちなみに最初に放流された魚はニッコウイワナと呼ばれるイワナの1亜種で、命名された際の標本が日光の河川で採集されたものであったため、その名にニッコウがつけられている。話は戻るが、中禅寺湖に放流された魚がすぐに増え、現在の湖のようになつた訳ではない。



明治35年頃には暴風雨による洪水のため、第二次世界大戦の頃には食料不足に伴う乱獲によりマス類が激減した過去がある。しかし、そのような苦難に直面した際、当時の漁業者や行政が協力し合い、孵化場や養魚場の建設、孵化放流および密漁取締り等の対策を行うことで資源の消失を免れたようである。そのような努力が実り、中禅寺湖で大量のマス類が漁獲された年には、魚商により東京の三越でも販売されるほどであったという。近年、中禅寺湖のマス類の資源量は年により変動はあるものの、一定の水準を保っているように見えた。しかし2011年3月11日に発生した福島第一原子力発電所事故の放射能汚染により中禅寺湖の魚類の持ち出しが禁止され釣り人が激減し、その後ヒメマスの資源量は一時増加したもののが3、4年後には激減してしまった。当時、漁業協同組合の方々は湖から釣り人と魚が消えゆく不安の中でも、決して諦めることなくマス類の増殖活動を継続し、国や県は放射線量の測定や原因究明に向けて日夜努力を行った。その努力の甲斐あってか、昨年ようやくヒメマスの持ち出しが解禁され、河川を埋め尽くすほどの大量のヒメマスが産卵のため湖から遡上した。このように中禅寺湖とその魚達には、幾多もの困難を人間とともに乗り越えてきた歴史がある。この湖・魚・人の関係が今後も続き、いつまでも中禅寺湖が「マス釣りの聖地」であり続けてほしいと切に思う。そして、この歴史を知ることで、釣り船から眺める美しい中禅寺湖の景色や魚達が、より一層格別なものになれば幸いである。

待ちに待った、奥日光の春到来！！

ヤシオリリジ咲く半月山周遊コース

花と男体山の展望で感じる奥日光の春

申込み・先着順
集合時間 09:30

奥日光に春の訪れを告げるヤシオリジの風情を、男体山と中禅寺湖の風景と一緒に楽しめます。

5/13(Sun)

10:00—15:30

対象:現地に集合できる高校生以上の方(健脚向け)
(15歳未満は保護者同伴・20歳未満は親権者の同意必要)
集合場所:県営立木第2駐車場(立木観音前)
解散場所:旧英國大使館別荘
参加費:3,000円 定員:10名
要事前申込(申込開始 2018年4月1日~)



写真はイメージです

奥日光花と歴史の旅

チャレンジ!!花咲く中禅寺湖南岸

花咲く道を歩きながら歴史を学ぶロングコース

申込み・先着順
集合時間 08:30

歌が浜から千手ヶ浜まで歩く約14kmのロングコース。日光修験道の歴史や文化に想いを馳せながら歩きます。

6/10(Sun)

09:00—15:30

対象:現地に集合できる中学生以上の方(比較的健脚向け)
(15歳未満は保護者同伴・20歳未満は親権者の同意必要)
集合場所:歌が浜第1駐車場(遊覧船乗場前)
解散場所:低公害バス千手ヶ浜バス停
参加費:2,000円(低公害バス等交通費別) 定員:10名
要事前申込(申込開始 2018年4月1日~)



写真はイメージです

奥日光初夏の大自然大満喫！

湯元→華厳滝 フラワーハイキング

花を愛でながら変化に富んだ地形を学ぶ

申込み・先着順
集合時間 09:00

対象:現地に集合できる中学生以上の方
(15歳未満は保護者同伴・20歳未満は親権者の同意必要)
集合場所:日光湯元ビジターセンター
解散場所:華厳滝
参加費:2,000円 定員:10名
要事前申込(申込開始 2018年4月1日~)

6/3(Sun)

09:30—15:30



写真はイメージです

奥日光湯元温泉の魅力再発見

早朝散策

朝の清々しい空気の中、身近な自然を再発見♪

集合時間 06:30

対象:現地に集合できる方(中学生以下は保護者同伴)
集合場所:日光湯元ビジターセンター
参加費:無料 定員:先着15名
事前申込不要

朝の湯元温泉街をスタッフがご案内致します。
ゆっくり歩きながら、周辺の自然散策や歴史探訪を樂しませんか？

5月3・4・5日 及び
5月～6月毎週日曜
06:30—07:30



写真はイメージです

2018年4月1日イベント申込開始

日光湯元ビジターセンター
TEL:0288-62-2321
FAX:0288-62-2378

お申込の際、平成29年以降実施イベントの参加の有無、氏名・年齢
郵便番号・住所・電話及び当日連絡先、交通手段をお知らせください。
(日程や内容が変更になる場合がありますので、予めご了承ください)